

2025

環境報告書

ENVIRONMENTAL
REPORT

2025

CONTENTS

理事長メッセージ／東京科学大学環境方針 1

第1章 東京科学大学の概要

キャンパス図／基本的要件 2
 組織構成 4
 環境マネジメント推進体制 5

第2章 環境に関する研究

環境関連研究内容 6



第3章 環境に関する取り組み

理工学系 7
 医歯学系 10



第4章 環境パフォーマンス

マテリアルバランス 13
 省エネルギーとCO₂対策の取り組み 14
 廃棄物による環境負荷低減の取り組み 19
 下水道に関する環境負荷低減の取り組み 21
 化学物質による環境負荷低減の取り組み 22
 PRTR対象物質等の環境中への排出抑制管理 23



■「環境報告ガイドライン2018」との対照表 24

■ 編集後記 25



本学では、積極的に持続可能な開発目標 (SDGs) に取り組んでいます

理事長メッセージ

昨今、気候変動、エネルギー、経済等の社会課題により、私たちの取り巻く環境が日々変化しています。

日本における気候変動の観点では、2025年3月26日に、文部科学省と気象庁による報告書「日本の気候変動2025」が公表され、地球温暖化および地球温暖化等を起因とする気候変動に関する観測結果に基づく将来予測等が掲載されています。

これらを含む地球規模の環境問題等の課題解決のために、教育機関そして研究機関でもある大学に求められる役割は大きいものになります。

東京科学大学 (Science Tokyo) は、東京医科歯科大学と東京工業大学という2つの国立大学の統合により2024年10月に設立された新しい大学です。

Science Tokyoでは、人々がやりたいと願う未来の姿を、善き生活、善き社会、善き地球のマルチスケールで考え、それらに向けた研究・教育を総合して、「善き未来」を作っていく役割を担い、新学術・新産業の創成や感染症、カーボンニュートラルなどの社会課題への対応に挑戦していきます。

また、「善き未来」の実現を目指すために、研究体制「Visionary Initiatives (VI: ビジョナリーイニシアティブ)」を導入し、現行の医学、歯学、理学、工学、情報学、リベラルアーツなど分野別縦割りの研究体制を、分野横断型へと大

きく変革する仕組みを設け、全研究者が順次参加する他、大学院教育にも連動させ既に6つのVIを定めて大学のビジョン(善き生活、善き社会、善き地球)の実現に向けて取り組んでいきます。特にVIのひとつに、GX Frontier(グリーントランスフォーメーションで持続可能な未来を実現する)を掲げており、「気候変動の課題克服」や「ネイチャーポジティブの実現」等に向けて取り組む予定です。これらの取り組みにより、統合で掲げてきた医工連携など融合研究を加速し、VIを通じて社会の多様な組織とともにイノベーション創出の新たなエコシステムを構築していきます。

本報告書は、Science Tokyoとして初の環境報告書となり、「善き未来」の実現へ繋がる、本学教職員、学生及び病院における環境に関する各種研究・取り組みをご紹介します。

また、掲載に際しては、環境省の環境報告ガイドラインに従い、国際目標であるSDGsに照らしつつ、2024年度(上半期は東京医科歯科大学及び東京工業大学、下半期はScience Tokyoとして)の環境安全活動を総括しております。

是非、本報告書をご一読いただき、Science Tokyoのこれからの活動に引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年9月
東京科学大学 (Science Tokyo) 理事長 大竹 尚登



東京科学大学環境方針

2025年3月21日制定

基本理念

東京科学大学は、「『科学の進歩』と『人々の幸せ』とを探求し、社会とともに新たな価値を創造する」をMissionに掲げ、医歯学と理工学の叡智を統合して環境問題を人類と生命の存亡に関わる地球規模の最重要課題と認識するとともに、教育・研究・診療などあらゆる活動を通じて環境保全と環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の創生と未来世代への責任を果たす。

基本方針

- 1. 研究活動の推進** 持続可能な社会の創生に寄与する科学技術研究を推進し、環境問題の解決に資する知の創造に努める。
- 2. 人材育成** 環境意識を高く持ち、専門的知識を有する人材を育成し、社会の多様な分野で環境課題の解決に貢献できるリーダーを輩出する。
- 3. 社会貢献** 1及び2に掲げる研究活動、人材育成および診療を通じて、日本国内のみならず国際社会に貢献する。
- 4. 環境負荷の低減** 自らの活動が及ぼす環境負荷を最小限に抑えるため、具体的な環境目標を策定し、実行する。
- 5. 環境マネジメントシステム** 環境に配慮した大学運営を実現するため、先進的な環境マネジメントシステムを構築し、効果的な運用と継続的な改善に努める。
- 6. 環境意識の高揚** すべての教職員および学生に対して環境教育・啓発活動を実施し、環境問題に関する意識の向上を図る。
- 7. 法令遵守と情報開示** 環境関連の法令、条例、および協定を遵守し、環境への取り組みを関係者に周知するとともに、基本方針や取り組みについて外部に開示する。

OVERVIEW

東京科学大学の概要

【大岡山キャンパス】

敷地面積 242,724㎡ / 建物面積 293,175㎡

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1

- 理学院
- 工学院
- 物質理工学院
- 情報理工学院
- 生命理工学院
- 環境・社会理工学院
- リベラルアーツ研究教育院
- 総合研究院(ゼロカーボンエネルギー研究所)
- 地球生命研究所
- リサーチインフラマネジメント機構
- 事務局 その他

【すずかけ台キャンパス】

敷地面積 228,216㎡ / 建物面積 156,002㎡

〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町4259

- 理学院
- 工学院
- 物質理工学院
- 情報理工学院
- 生命理工学院
- 環境・社会理工学院
- 総合研究院
- (未来産業技術研究所・フロンティア材料研究所・化学生命科学研究所)
- リサーチインフラマネジメント機構
- 事務局 その他

【田町キャンパス】

敷地面積 23,223㎡ / 建物面積 23,085㎡

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

- 附属科学技術高等学校
- 環境・社会理工学院
- 事務局

大岡山キャンパス



①本館(登録有形文化財)

1934年以来、大岡山キャンパスの中心に位置する本学のシンボル。時計塔は堂々とした姿を現しています。



④博物館・百年記念館

本学の創立100年を記念して作られました。常設展示では、本学ゆかりの研究成果を見ることができます。



⑦北3号館(環境エネルギーイノベーション棟)

壁面を覆うソーラーパネルと独自のエネルギーシステムで、棟内で消費する電力をほぼ自給自足できます。



②本館前ウッドデッキ

桜並木の中に設けられたウッドデッキ。満開の桜はもろもろ、木のぬくもりとともに四季の景色を彩ります。



⑤Hisao & Hiroko Taki Plaza

学生のための国際交流拠点であり、本学が目指す「学生本位の学び」の拠点となる重要な施設となります。



③大岡山図書館

グッドデザイン賞を受賞したモダンなデザイン。64万冊以上の蔵書が収められています。



⑥グラウンド

敷地面積2万㎡の全面人工芝グラウンドでは、学生たちが部活やサークルに日々励んでいます。



⑧ものづくりセンター

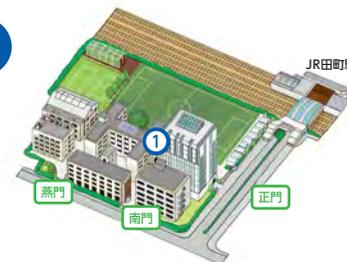
思い描いたアイデアを具現化できる施設。機器設備を自由に使用でき、学生の創作活動を支援しています。

田町キャンパス



①附属科学技術高等学校

理・工学の基礎を学ぶ附属高校は、「スーパーサイエンスハイスクール」と「スーパーグローバルハイスクール」の2つの研究開発学校の指定を受けています。



すずかけ台キャンパス



①すずかけホール

国際会議も行われるすずかけホールには、食堂やカフェも入り、学生たちのオアシスになっています。



②J2・J3棟

すずかけ台キャンパス随一の高層棟。J3棟には実験室利用に特化して整備されたスペースがあります。



③加藤山

キャンパス内にある保全緑地。四季折々の自然を楽しむ遊歩道を備えています。

OVERVIEW

東京科学大学の概要

【湯島キャンパス】
敷地面積 45,090㎡ / 建物面積 273,054㎡
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

- 医学部医学科 ● 医学部保健衛生学科
- 歯学部歯学科 ● 歯学部口腔保健学科
- 病院
- 総合研究院(難治疾患研究所)
- 事務局 その他

【駿河台キャンパス】
敷地面積 5,597㎡ / 建物面積 18,028㎡
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10

- 総合研究院(生体材料工学研究所)
- M&Dデータ科学センター その他

【国府台キャンパス】
敷地面積 61,049㎡ / 建物面積 13,965㎡
〒272-0827 千葉県市川市国府台2-8-30

- リベラルアーツ研究教育院
- 図書館 その他



①知と癒しの庭 ②病院8階の屋上

本学の病院では、患者さんが自然に触れて癒されるように、屋上にも植栽しています。都会の真ん中でありながら、緑や紅葉、季節の花々を鑑賞することができ、心の癒しになる場所です。



④生体材料工学研究所

医学、歯学、生命科学系の研究者と密接に連携することで、本学医歯学系における、理工系の教育研究を担っています。



湯島キャンパス



⑦近代教育発祥の地
明治4年(1871)に文部省が設置され、我が国の近代教育の原点となる施策が展開された場所です。

国府台キャンパス



⑧国府台キャンパス 正門

教養教育の拠点であり、体育館、弓道場、武道館、グラウンドがおかれ、学生の課外活動が行われています。



⑤病院屋上ヘリポート

病院屋上のヘリポートを利用して、ヘリコプター搬送患者の受け入れを行っています。



⑥C棟

ERセンター、手術室、集中治療室(ICU)、医療器材、医療情報システムなど、病院の機能を強化するための施設として使われています。

基本的要件

大学名	国立大学法人東京科学大学
創立	2024年10月1日
構成員数 (2024年10月1日現在)	教職員 8,359人 学生 13,826人(附属高校生565人を含む)

報告対象範囲	● 湯島キャンパス ● 大岡山キャンパス ● 駿河台キャンパス ● すずかけ台キャンパス ● 国府台キャンパス ● 田町キャンパス
報告対象期間	2024年4月1日～2025年3月31日



東京科学大学の概要

組織構成

2024年10月1日

教育研究等組織

学院

- 理学院 ● 系外惑星観測研究センター
- 工学院
- 物質理工学院
- 情報理工学院 ● サイバーセキュリティ研究教育センター
- 生命理工学院
- 環境・社会理工学院 ● 教育施設環境創造センター

研究科

- 医歯学総合研究科 ● 医歯理工保健学専攻
医歯学専攻
生命理工医療科学専攻
東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻
東京科学大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻
東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻
感染症センター
- 保健衛生学研究科 | 看護先進科学専攻

学部

- 医学部 | 医学科
保健衛生学科
- 歯学部 | 歯学科
口腔保健学科

リベラルアーツ研究教育院

研究院

- 総合研究院
 - 研究所 ● フロンティア材料研究所
化学生命科学研究所
未来産業技術研究所
生体材料工学研究所
ゼロカーボンエネルギー研究所
難治疾患研究所
 - 研究センター ● 脳統合機能研究センター
再生医療研究センター
細胞制御工学研究センター
M&D データ科学センター
全固体電池研究センター
核酸・ペプチド創薬治療研究センター
元素戦略 MDX 研究センター
多元レジリエンス研究センター
口腔科学センター
自律システム材料学研究センター
量子航法研究センター
融合価値共創研究センター
スーパーコンピューティング研究センター
- 14 研究ユニット
- 高等研究府
- 若手研究者支援センター
- 基礎研究機構

未来社会創成研究院

- 地球生命研究所
未来の人類研究センター
ウェルビーイング創成センター
Dlab+

新産業創成研究院

- | 医療工学研究所

附属科学技術高等学校

病院

- 医系診療部門
- 歯系診療部門
- スポーツサイエンス部門
- 基盤診療部門
- 診療管理部門
- 保健医療管理部
- 医療安全管理部
- 感染制御部
- 臨床研究監視室
- ヘルスサイエンス R&D センター
- 臨床研究中核病院設置準備室
- 改革推進室
- 看護部

共通教育組織

- リーダーシップ教育院
- 物質・情報卓越教育院
- 超スマート社会卓越教育院
- エネルギー・情報卓越教育院
- アントレプレナーシップ教育機構
- データサイエンス・AI 全学教育機構
- ヘルスケア教育機構
- 社会人アカデミー
- 医療・創薬イノベーション教育開発機構

共通支援組織

- イノベーションデザイン機構
- 図書館
- 情報基盤センター
- 放射線安全管理センター
- 環境・安全推進センター
- 職員健康管理センター
- 国際支援センター
- 博物館
- 保健管理センター
- 学生支援センター
- アドミッションセンター
- 教育革新センター
- リサーチディベロップメント機構
- リサーチインフラ・マネジメント機構
- 産学共創機構
- 医療イノベーション機構

運営組織

理事等支援組織

- 戦略本部
- 医療本部
- インフラ本部
- 教育本部
- 研究・イノベーション本部
- 国際本部
- 安全本部
- 社会連携・DE&I 本部

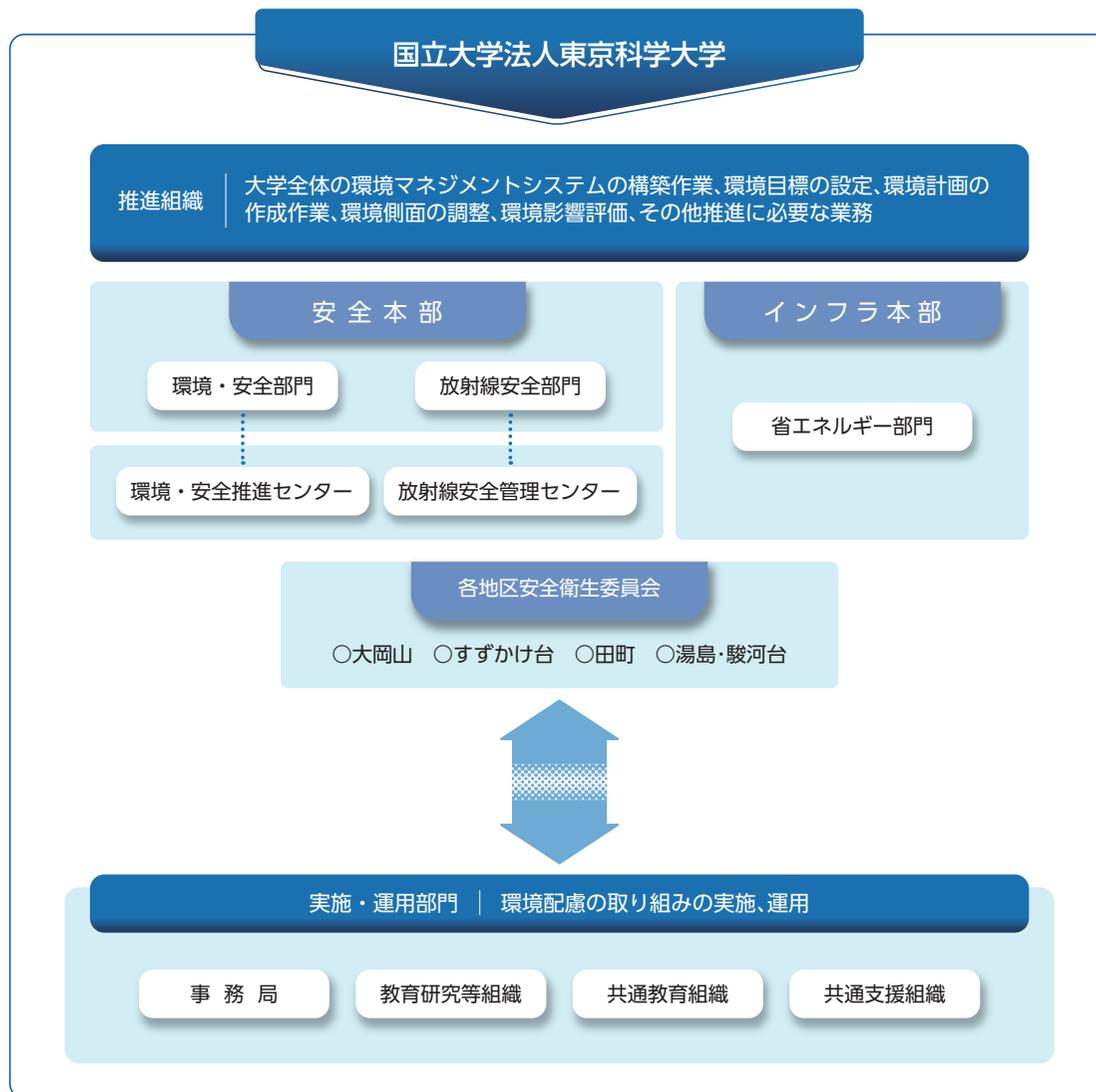
事務局

- 総務企画部
- 人事部
- 財務部
- 施設部
- 情報部
- 教育推進部
- 研究推進部
- 学院等事務部
- 研究院事務部
- 病院事務部

監査室

環境マネジメント推進体制

本学は、環境マネジメント推進体制のもと、全学一丸となり継続的に環境保全活動に取り組んでいます。



環境・安全部門

- キャンパスの安全・教育研究および診療のための環境の安全衛生マネジメント
- 環境保全及び化学物質管理

放射線安全部門

- 放射線障害の予防並びに特定放射性同位元素のセキュリティ対策の計画策定および推進
- 放射線の安全利用に関する企画・立案・整備および実施の統括
- 核燃料物質等の使用・計量管理・保安に係る調整および統括

省エネルギー部門

- 省エネルギーに対する意識向上および省エネルギー推進を図るための諸施策の策定および実施等

各地区安全衛生委員会

- 職員の危険・健康障害を防止するための基本対策に関する事項、健康の保持増進を図るための基本対策に関する事項、労働災害の原因および再発防止対策に関する事項の調査・審議

環境・安全推進センター

- 安全・衛生・環境の総括管理および化学物質管理

放射線安全管理センター

- 放射線利用者の全学的安全管理の統括
- 放射性物質、核燃料物質、放射線発生装置および表示付認証機器の安全利用に関する教育訓練の実施

鉄触媒が拓く持続可能な有機合成の未来

私たちの社会は、医薬品、農薬、化学繊維、機能性材料といった多様な有機化合物に支えられています。これらを生み出す「有機合成」は、分子のパーツを自在につなぎ合わせることで、望みの性質をもつ化合物を構築する技術です。その過程では、反応の効率や選択性を高めるために「触媒」が使われます。触媒は自らは変化せず反応を促進するため、エネルギー消費や副生成物の削減において重要な役割を果たします。

従来、多くの高性能な触媒にはパラジウムやロジウムなどの希少金属（レアメタル）が用いられてきました。しかしこれらは高価で、地球上の埋蔵量も限られており、採掘や精製には多大なエネルギーと環境負荷が伴います。こうした背景から、より安価で環境負荷の少ない金属への代替が世界的に求められています。

その中でも特に注目されているのが「鉄触媒」です。鉄は地球上に最も豊富に存在する金属のひとつで、安価かつ環境負荷の小さい資源です。さらに、鉄は生体内でも酸素の運搬を担うヘモグロビンに含まれており、安全性の面でも優れています。

現在、我々の研究室では、鉄触媒を用いた有機化合物の新しい合成法の開発を進めています。たとえば、医薬品の有効成分や生物活性をもつ有機化合物を、鉄触媒を使って高効率かつ選択的に合成する手法を見いだしています。これにより、従来のレアメタル触媒を使う方法と比べて、環境負荷やコストを大きく削減できる可能性が広がっています。

鉄触媒の反応は、単に代替材料の選択にとどまらず、有機合成化学、錯体化学、材料化学など学際的な研究の融合によって日々進化しています。分子設計や配位子制御などの工夫を通じて、選択性や反応性の向上が進められており、産業応用も視野に入ってきています。

鉄という身近な元素の新しい活用は、限られた資源を有効に使い、環境負荷を抑えた次世代型ものづくりへと私たちを導いてくれます。その応用の広がりに、今後も大きな期待が寄せられています。

生命理工学院 生命理工学系
准教授 秦 猛志
秦研究室HP <https://www.hata-lab.life.isct.ac.jp/>



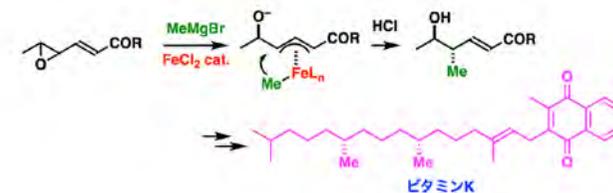
安心・安全・安価な「鉄」を利用するメリット



- ・鉄は元素戦略的、環境調和的にも重要な金属です
- ・鉄を持続可能社会に適したものづくりに利用する



生物活性分子合成における鉄触媒の利用例



Science Tokyo GXI 公開シンポジウム

Science Tokyo GXI (旧 Tokyo Tech GXI) は、持続可能なカーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシステムの研究開発や、産官学や地域、国際研究機関と連携したオープンイノベーションによる社会実装の加速に取り組んでいます。

昨年度もその成果を広く社会に還元するため、企業や自治体、一般の方々を対象に公開シンポジウムを開催しました。

大学統合後初となる本シンポジウムでは、「GXI VISION 2050と工学 × 医療によるGX領域拡大」をテーマに、ウェルビーイング（医療、生活環境）分野を含めた工学 × 医療の異分野共創によるGX研究に関する講演や意見交換会を行いました。



第19回 四大学連合文化講演会 (Tokyo-4Univ. レクチャー) ～学術研究の最前線：環境・社会・人間～

東京科学大学（旧東京医科歯科大学・旧東京工業大学）・東京外国語大学・一橋大学は、2001年3月に四大学連合憲章を結び、アウトリーチ活動として毎年度、文化講演会を開催し、最新の学術研究をわかりやすく解説しています。

本学からは、宍戸厚教授（総合研究院 化学生命科学研究所）が「光を動かして分子を並べる！～自然の力を借りてみよう～」、福井小紀子教授（保健衛生学研究科研究科長）が「テクノロジーを活用して看護師が行う最適なケア提供を目指して：企業と進めてきた産学連携研究の紹介」を演題に、それぞれ講演しました。



環境月間特別講演会



環境研究への一般の方の理解推進のためのイベントとして毎年テーマを変えて開催しています。

講演題目：再生可能エネルギーは環境に優しいか？

2024年度環境月間のイベントとして、2024年6月22日 Zoomによるオンライン開催にて本学環境・社会理工学院の錦澤滋雄准教授の講演会を開催しました。

脱炭素が世界の潮流として目指されるなか、風力や太陽光発電のさらなる導入拡大が期待されています。それにより地域社会や自然環境に生じる問題や影響等について、社会科学や環境政策の視点からわかりやすく講演しました。

進行役の本学生命理工学院の田川陽一准教授との質疑応答に加え、参加者の中からも多数の質問が寄せられ、活発な議論がなされました。エネルギー問題を多様な視点から見つめ直すことができたなど多くの感想が寄せられました。



パソコンの中にサンゴ礁？～人と自然の共生に向けて～

初めまして。皆さんは生きたサンゴを見たことがありますでしょうか？サンゴ礁生態系は全海洋面積の0.2%ほどで、海洋生物のおよそ25%を支える非常に重要な生態系です。イソギンチャクの仲間であるサンゴは褐虫藻という藻類を体内に共生させ、エネルギーをもらい暮らしています。（写真1）しかしその生態は非常に複雑で未解明なため、保全や回復が難航しています。

サンゴは沿岸の開発活動や農業などの影響を受けやすく、加えて近年の地球温暖化によってサンゴと褐虫藻の共生関係が崩れ、やがて死に至る“白化”と呼ばれる現象が頻発しています。私の調査地である沖縄県でも2024年に大白化現象が起これ、一夏でサンゴの海が荒れ果てる様を目の当たりにしました。（写真2）

このままでは20年後にほとんどサンゴは残らないと言われていています。この状況を打開すべく、私の研究ではサンゴ礁生態系をコンピュータ上で再現し、様々な環境でのサンゴ礁の状態を予測しています。

サンゴのデジタル再現に向けて、まずは詳細な観察が不可欠です。私は毎年夏に沖縄に出向き、実際のサンゴ礁の調査や、水槽でサンゴのストレス耐性実験を行います。（写真3・4）そして冬は夏の結果をもとに現場海域の水流モデルやサンゴの生体モデルの作成を行っています。（図5）

特に現在は白化のメカニズムがモデル化されていないので、“褐虫藻の喪失や機能不全によるサンゴ飢餓説”をベースとしたサンゴと褐虫藻の脂質（≒体脂肪）の分析を行っています。

本研究によって、つながりが曖昧だった陸での人間活動と、海のサンゴ礁の関係性が明確になります。これは我々が目指す“持続可能な発展”および“人と自然との共生”を達成する上で不可欠であり、なにより私たちが自然の面白さをこれからも楽しむことにつながります。

環境・社会理工学院 中村隆志研
博士課程3年
上杉 一馬

中村研究室HP URL : <http://www.nakamulab.mei.titech.ac.jp/>

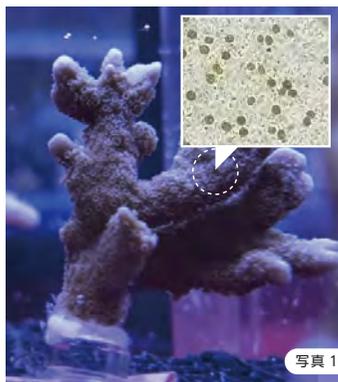
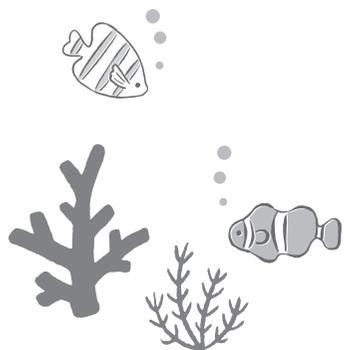


写真1

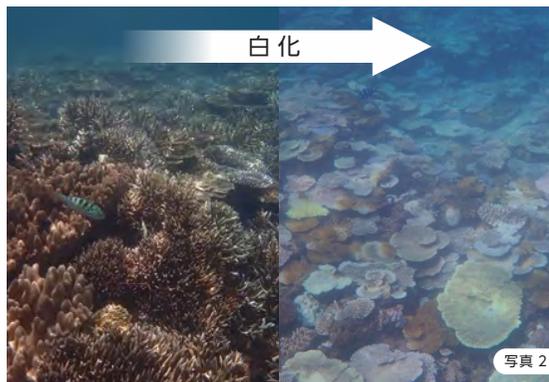


写真2



写真3



写真4

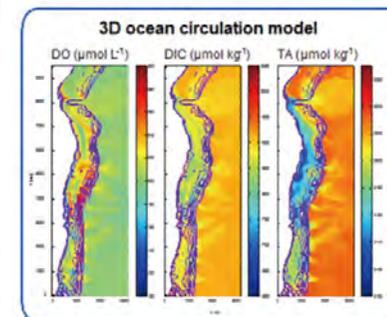
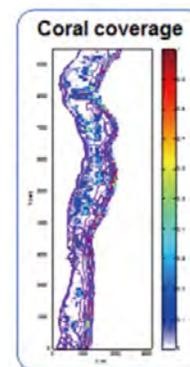


図5

東京科学大学学生ボランティアグループ(VG)の活動

使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収

2025年2月より、Hisao & Hiroko Taki Plaza (以下 Taki Plaza) の1階および地下2階に「アイシティ eco プロジェクト」のコンタクトレンズの空ケース回収ボックスを設置しています。

使い捨てコンタクトレンズの空ケースはリサイクルに適した素材であり、販売店等で回収が行われていますが、全国でのリサイクル率は2%程度(※1)に過ぎません。本学にも多くのコンタクトレンズ利用者がいますが、空ケースを保管して店頭の回収ボックスに持ち込んでいる人はあまり多くないと推測されます。そこで、大学キャンパス内に回収ボックスを設置すれば、より気軽に回収へ協力しやすくなるのではないかと考えました。回収した空ケースは再生ポリプロピレン素材へリサイクルされるだけでなく、「アイシティ eco プロジェクト」を通じて、角膜移植ドナー制度の支援、障がい者の自律・就労支援といった社会貢献活動にもつながります。

2025年2月～3月で大きな回収ボックス半分(推定3,500個ほど)の空ケースが集まっており、回収ボックスの増設も視野に、今後も取り組みを続けていく予定です。

Taki Plaza 1階の回収ボックスは学外の方にもご利用いただけるため、地域の方々も含めて本学からリサイクルの輪が広がっていくことを期待しています。

※1: 「2023年アイシティ コンタクトレンズ販売実績」より



Taki Plaza地下2階の回収ボックス

古本市

大学で使用される教科書・参考書の中には、授業が終わると使用されなくなる本も多くあります。

VGは、教科書・参考書のリユース促進を目的として、書籍寄付活動「古本市」を運営しています。古本市では、Taki Plaza 地下1階に古本回収BOXを設置しており、誰でも自由に本の寄付ができます。寄付された本はVGメンバーが状態を確認したのち、Taki Plaza 地下2階の本棚に並べられます。本棚にある古本は、学生なら誰でも自由に持っていくことができます。

2024年度は約150冊の本が回収・譲渡されました(参考: 2023年度は9月から3月で約130冊回収)。今後も古本市活動を継続し、リユース活性化に貢献していきたいと思います。



古本配布場所の本棚

みどりサンタ

VGは毎年、横浜市緑区の環境保全活動「みどりサンタプロジェクト」に参加しています。今年度は、地域の小学生と共に中山駅周辺のごみ拾いを行い、環境保全と地域連携の重要性を再確認しました。その後、緑区にキャンパスを置く4大学の学生らと、街中のゴミを減らす方策について多様なアイデアを共有し合い、良い刺激となりました。

VGは、こうした身近な活動を通して、地域における環境意識の向上にも貢献していきます。



サンタ帽を被ってのごみ拾い



ポイ捨て削減についてディスカッション



理学院数学系
学士課程2年
坂本 幸生喜



工学院情報通信系情報通信コース
修士課程2年
松尾 祥汰

✕ <https://x.com/titechVG>

📷 https://www.instagram.com/tokodai_vg/

大岡山学生支援センター未来人材育成支援室(学生活動支援) <https://www.siengp.titech.ac.jp/ScienceTokyo/index.html>

病院における5S活動 - 5S活動で病院の美化推進 -

病院（歯系診療部門）では2011年より『5S活動』に取り組み、15年目になりました。

『5S（ごエス）』とは、職場管理の基盤づくりの活動で、①整理、②整頓、③清掃、④清潔、⑤習慣化（しつけ）という5つのステップからなり、これらの5つの頭文字をとっているものです。

その期待される効果は医療事故や無駄の削減、たとえばヒューマンエラーの防止、患者の事故防止、ものを探す無駄の削減、スペースの有効活用や、経営の質の向上、管理監督者のマネジメント力の向上、チームの問題解決力の向上、自律的な職員となる意識改革などが促進され、よりよい病院になることが期待されます。

2021年の医学部附属病院と歯学部附属病院の一体化後は、歯系診療部門で培ってきた5S活動を医系診療部門にも普及することを目標として、5S活動を継続しています。2024年度は患者さんの目に触れる箇所の整備を目的とし、情報過多となっていた掲示板の整備を徹底しました。

オリジナルのマスコットキャラクター（5Sレンジャー）もあり、病院の5S活動に貢献しています。



5つの^{エス}S

- ①整理 必要なものと不要ものを分別し、不要な物を捨てます
- ②整頓 必要なものがすぐに取り出せるように、場所や置き方を決め、分かりやすく表示します。
- ③清掃 清掃をしてきれいな状態にするとともに、物品の点検も行います。
- ④清潔 整理、整頓、清掃を徹底し、きれいな状況を維持します。
- ⑤習慣化 1～4で決められたことを、決められたとおりに実行できるよう習慣づけます。



各部署間で、相互に評価をする仕組みを導入し、すべての部署で点検を行っています



定期的に外部講師による評価を受けています（矯正歯科外来）



日々の清掃活動の様子



5S活動ビフォーアフター（歯科技工部）

地球と人の健康を考慮した病院食

2020年にEATランセット委員会（EAT-Lancet Commission）が発行した「持続可能な食糧システムの視点から見た健康的な食事（Healthy Diets From Sustainable Food Systems）」は、世界の食糧生産と現在の食生活に大きな変革を求めるものです。そして、2021年には国連が中心となってFood Systems Summitが開催され、資源を枯渇させない、持続可能な食糧システムへの移行がますます加速しています。

臨床栄養部でも、食材の納品は前日まで調整、さらに配膳時間ギリギリまで調理量を調整する等、食品ロスを極力減らすため様々な努力をしています。それでも余った場合は真空パックにし冷凍保存、また重湯を作る際の粥は、嚥下食や、ポタージュのとろみに使用するなど工夫しています。また個々の患者さんに対しては、残さず食べることができるよう食事を半分とし、不足する栄養素は栄養素密度の高い補助食品などで補給、必要量を充足できるように調整しています。

当院の食品ロスの金額（食材購入費から実際に提供した食材料費の差額を食品ロスと定義）は、2014年度は約310万円でしたが、2024年度は約250万円まで削減できています。

昨今、健康や栄養のある食事を損なうことなく、気候変動に対処し、

CO₂排出量を削減し、食料の損失やエネルギー使用を削減するために、最近では食肉を植物由来のたんぱく質に置き換えることがブームとなりつつあります。

病院給食や学校給食は公共の食事（Public Food）の側面があり、国や地域の食文化の鏡です。こうした公共の食事を、人と環境に配慮した持続可能な食事へと移行することは、社会全体の食事に対する意識変革や地域の食育に大きな影響を及ぼします。そのため、人と地球の健康を考慮した病院食を目指すことは今後の社会にとって重要な意味を持ちます。

国立がん研究センターの研究では、エネルギー摂取量に対する植物性たんぱく質摂取量の割合が多いほど、死亡リスク、特に循環器疾患死亡リスクが低いことが明らかとなっています（JAMA Intern Med. 2019 Oct 1;179(10):1448.）。動物性タンパク質 / 植物性タンパク質比率は、国民健康・栄養調査では、2023年度は54.7%であり、当院の2024年度の平均は54.3%でしたが、今後この比率を45～50%に下げることが目標としています。

そのため、大豆製品の使用増及び「肉の代わりになるもの」、「肉以外の食材で作上げた肉」の代替肉を使ったメニューの開発に取り組んでいます。

代替肉を使ったメニュー



防災・環境に関する取り組み

病院における防災訓練

東京科学大学病院は、東京都の災害拠点病院に指定されており、災害時は院内にいる患者、職員の安全を確保し、地域医療の核として継続的な医療提供が期待されています。災害時にも病院の役割を發揮するため、毎年大規模地震等に備えて訓練を実施しています。

2024年7月には、災害時の対応の流れや災害対策マニュアルを検証するための訓練を開催し、傷病者への絶え間ない医療提供体制の確認を行いました。



災害対策本部の様子



外来患者避難誘導の様子

物品の有効活用について

医歯学系では、学内（分野等所有物品）で使用しておらず、まだ学内（他の分野等）で使用できる物品を有効活用（再利用）するために、学内HPで情報提供を行っています。トナーなどの事務用品、椅子・机などのオフィス什器類、実験台や実験機器などの研究・医療関係品、その他の分類ごとにページを作成し周知することで、幅広い物品が廃棄されずに済んでいます。

2024年度は、95件掲載依頼があり、そのうち46件の受け渡しが成立し、成約率は48%でした。



湯島キャンパス放置自転車の撤去・対策

湯島キャンパス内に駐輪している自転車・自動二輪車について、2024年度も駐輪場パトロールを施設管理課、業務支援室で実施しました。放置自転車等を把握するために駐輪場の全ての自転車等に張り紙を貼り、一定期間周知後に分別し撤去を実施しました。

また、2019年度より導入された自転車等の登録制度により、分別作業の効率化、部外者の利用抑制、及び放置自転車の台数が削減されました。



湯島キャンパスにおける 放置自転車等の分別・撤去実績	2024年度	2023年度
	自転車	28台
自動二輪車	0台	1台

環境パトロール

駿河台キャンパスでは、御茶ノ水駅周辺地区生活環境美化・浄化推進連絡会会員として月2回の環境合同パトロールに協力している他、千代田区生活環境条例に定める年2回の一斉清掃日には、構内周辺の清掃を町内会とともにしています。

(参考) 合同パトロールの内容

- 参加者** 地区連絡会会員、千代田区、警察署、御茶ノ水駅、千代田区の企業等
- 内容**
 - ①清掃活動
 - ②放置自転車・バイクへの札貼り、違法駐車バイクのナンバー記録
 - ③路上喫煙者指導

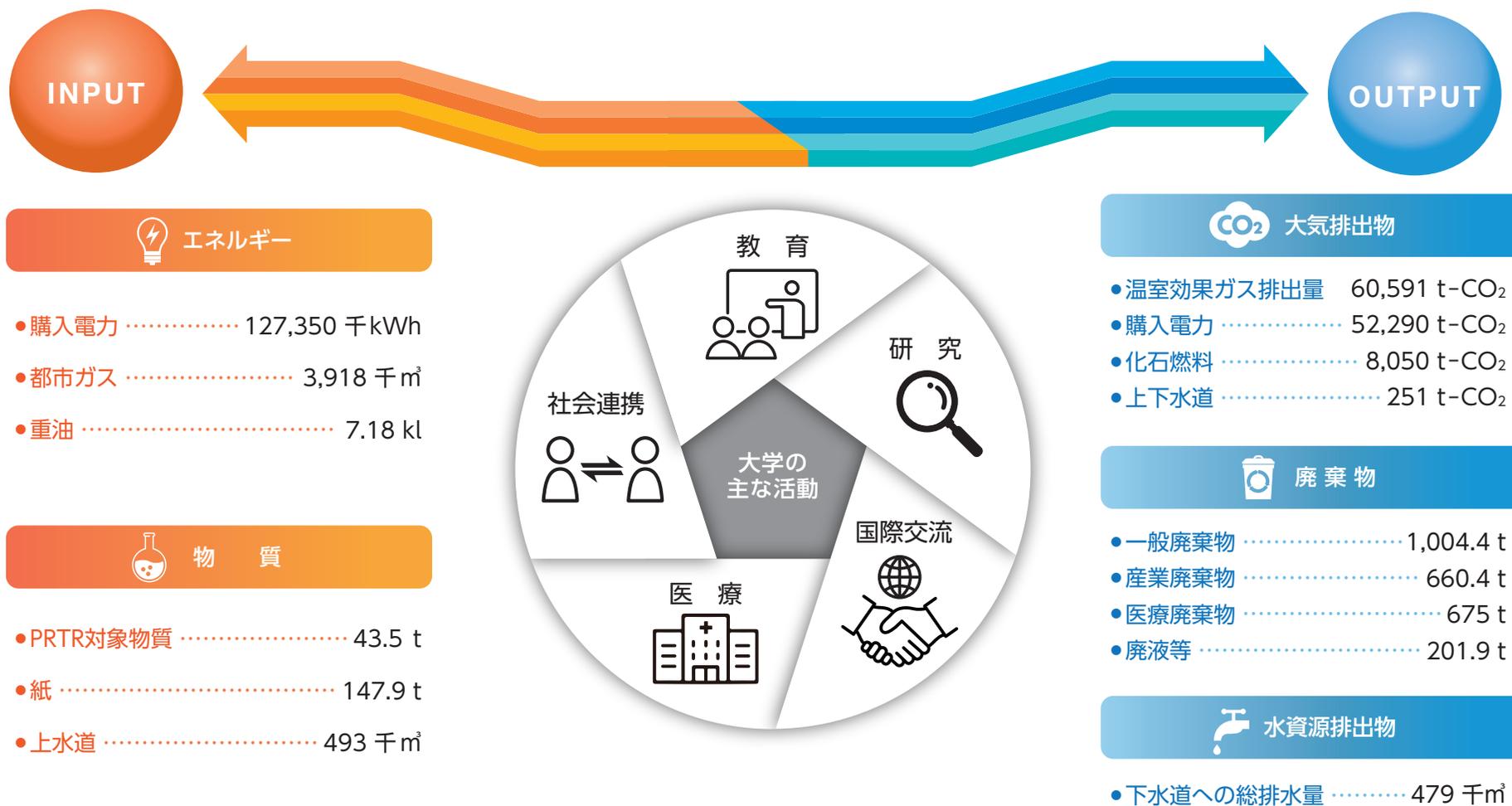




マテリアルバランス

本学は、最先端の研究活動、医療活動および教育(人材育成)活動に伴い多くのエネルギーとさまざまな物資を消費しています。エネルギーは主に電力、ガスであり、主な物質は化学物質、紙、水です。そのため本学では、できるだけ環境負荷の少ない事業活動を実現すべく環境保全に努めています。

2024年度の資源・エネルギー供給状況と環境負荷排出状況をマテリアルフローとしてまとめました。





省エネルギーとCO₂対策の取り組み

高効率機器およびシステムの積極的な導入

環境配慮型低酸素キャンパスへの実現を目標としている本学では、LED照明や高効率空調機への更新を年度毎に計画を立てて実施しています。また、エネルギーマネジメントの観点から、より一層の省エネ効果をたかめるために空調集中管理システムや電力集中検針システム等を導入、学内のエネルギー使用量の見える化を行い、教職員・学生の省エネ意識向上に努めています。さらに、太陽光発電システム、燃料電池等の再生可能エネルギーの導入を行っています。

●空調機を高効率機器に更新

旧大学名称	キャンパス名	更新台数
東京工業大学	大岡山	125台
	すずかけ台	0台
	田町	12台
東京医科歯科大学	湯島	151台
合計		288台

●照明器具や外灯をLED型に更新

旧大学名称	キャンパス名	更新台数(工事)	更新台数(リース)	合計
東京工業大学	大岡山	309台	0台	309台
	すずかけ台	676台	0台	676台
	田町	0台	0台	0台
東京医科歯科大学	湯島	1,589台	5,239台	6,828台
	駿河台	66台	0台	66台
	国府台	293台	0台	293台
	戸田艇庫	42台	0台	42台
	合計	2,975台	5,239台	8,214台

クールビズ・ウォームビズの実施

電力使用の多い時期は
ポスター等による節電の呼びかけを
積極的に行いました。

●クールビズの実施(5月1日～10月31日)



●ウォームビズの実施(12月1日～3月31日)



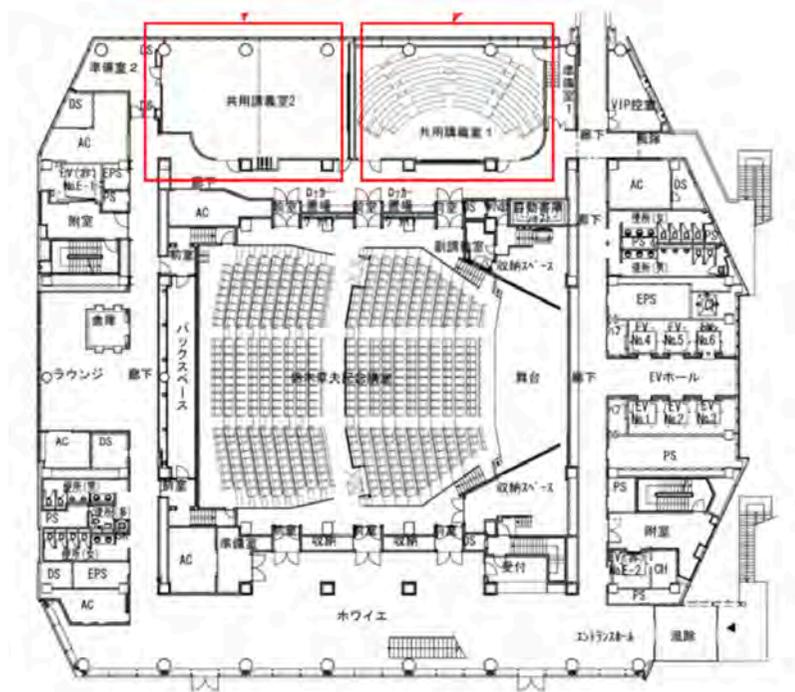
省エネルギーの推進を図るため
節電・省エネマニュアルを作成しました。

クールビズにおける「室温28℃」およびウォームビズにおける「室温20℃」とは、設定温度ではなく、あくまでも目安で立地や状況、体調を考慮しながら無理のない範囲で室温管理をお願いするものです。



省エネルギーとCO₂対策の取り組み

民間企業からの寄贈による講義室照明のLED化



2023年12月にアイリスグループより湯島キャンパスM&Dタワー2階共用講義室1・2にLED照明器具51台を寄贈していただきました。

アイリスグループは、省エネ製品の開発を中心に社会問題解決を目指した取組みを継続し、ユーザーのみならず地球上の誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献することを目標に活動され、その活動の一環として今回の寄贈が実現したものです。

照明器具のLED化により、電力消費量は約56%の削減、二酸化炭素排出量は年間約1tの削減となります。

【共用講義室2 LED化(27台)】



【共用講義室1 LED化(24台)】



リースでのLED化

湯島キャンパスではリース契約により、M&Dタワーで約4,400台、3号館で約800台、合わせて約5,200台の照明器具をLEDに更新しました。

2024年10月から2029年9月まで5年間のリース期間中は本学からリース会社に毎月定額のリース料金を支払い、リース完了後はリース会社から本学に無償でLED照明器具を譲渡してもらう契約内容になっています。

リース契約では初期費用を抑えることができるので、約5,200台もの大規模な照明器具のLED化を行うことができました。



省エネルギーとCO₂対策の取り組み

「節電と省エネガイドライン」とその効果について

●年間最大電力の節電実施状況

主要キャンパス	契約電力 (kW)	最大電力 (kW)			'24/'23 年度比 (%)
		2022年度	2023年度	2024年度	
大岡山	9,076	9,350	9,582	10,046	104.8%
すずかけ台	7,251	6,020	5,920	6,800	114.9%
湯島	9,900	9,456	9,816	10,044	102.3%

※「節電と省エネガイドライン」を制定し、節電と省エネに取り組みました。
 ※主要3キャンパスの最大電力は前年度と比べ、大岡山が4.8%増(2022年度比7.4%増)、すずかけ台14.9%増(2022年度比13%増)、湯島2.3%増(2022年度比6.2%増)となっています。

●総電力使用量の節電実施状況

キャンパス	総電力使用量 (FkWh)			'24/'23 年度比 (%)
	2022年度	2023年度	2024年度	
大岡山	39,925	41,319	38,988	94.4%
すずかけ台	26,836	27,201	33,590	123.5%
田町(附属高校)	427	436	460	105.5%
湯島	46,722	49,519	51,300	103.6%
駿河台	2,147	2,114	2,487	117.6%
国府台	573	526	525	99.8%

※2024年4月TSUBAME4が大岡山キャンパスからすずかけ台キャンパスに移転

※6キャンパスの総電力使用量は前年度と比べ、大岡山5.6%減(2022年度比2.3%減)、すずかけ台23.5%増(2022年度比25.2%増)、田町キャンパス5.5%増(2022年度比7.7%増)、湯島キャンパス3.6%増(2022年度比9.8%増)、駿河台キャンパス17.6%増(2022年度比15.8%増)、国府台キャンパス0.2%減(2022年度比8.4%減)となりました。

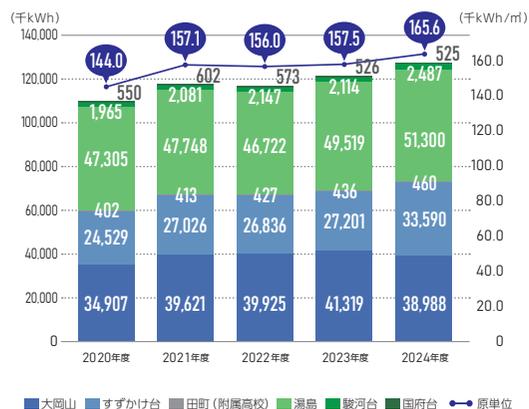




省エネルギーとCO₂対策の取り組み

環境活動取り組み結果データ

電力使用量



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大岡山	34,907	39,621	39,925	41,319	38,988
すずかけ台	24,529	27,026	26,836	27,201	33,590
田町(附属高校)	402	413	427	436	460
湯島	47,305	47,748	46,722	49,519	51,300
駿河台	1,965	2,081	2,147	2,114	2,487
国府台	550	602	573	526	525
計(千kWh)	109,658	117,491	116,630	121,115	127,350

6キャンパス合計	'24/20	'24/21	'24/22	'24/23
各前年度との比較	116.1%	108.4%	109.2%	105.1%

6キャンパス合計の電力使用量は昨年度に比べ5.1%増となりました。大岡山5.6%減、すずかけ台23.5%増、田町(附属高校)5.5%増、湯島3.6%増、駿河台17.6%増、国府台0.2%減となりました。

ガス使用量



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大岡山	363,598	315,635	270,053	210,525	237,180
すずかけ台	31,377	38,879	46,545	54,065	58,250
田町(附属高校)	34,517	33,085	32,200	33,913	35,250
湯島	3,432,204	3,240,329	2,971,470	3,329,228	3,574,879
駿河台	69	72	72	59	55
国府台	16,779	16,176	14,904	13,894	11,961
計(m³)	3,878,544	3,644,176	3,335,244	3,641,684	3,917,575

6キャンパス合計	'24/20	'24/21	'24/22	'24/23
各前年度との比較	101.0%	107.5%	117.5%	107.6%

6キャンパス合計のガス使用量は昨年度に比べ7.6%増となりました。大岡山12.7%増、すずかけ台7.7%増、田町3.9%増、湯島7.4%増、駿河台6.8%減、国府台13.9%減となりました。湯島キャンパスにはガスを燃料とした設備が複数あり、それらを病院等で24時間365日運転する必要があるので、ガス使用量が多くなっています。

総エネルギー使用量



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大岡山	364	409	409	421	399
すずかけ台	246	271	270	274	337
田町(附属高校)	6	6	6	6	6
湯島	621	617	595	639	667
駿河台	20	21	21	21	25
国府台	6	7	6	6	6
計(千GJ)	1,263	1,331	1,307	1,367	1,440

6キャンパス合計	'24/20	'24/21	'24/22	'24/23
各前年度との比較	114.0%	108.2%	110.2%	105.3%

6キャンパス合計の総エネルギー使用量は昨年度に比べ5.3%増となりました。大岡山5.2%減、すずかけ台23.0%増、田町±0%(増減なし)湯島4.4%増、駿河台19.0%増、国府台±0%(増減なし)となりました。



廃棄物による環境負荷低減の取り組み

紙使用量

2024年度の状況と増減理由

2024年度の紙の使用量は2023年度と比較すると、理工学系では6%の増加、医歯学系では3%の増加となりました。

これは、クラウドサーバー利用促進によるペーパーレス化を進める一方で、大学統合による業務量が大きく増加したことが理由であると考えられます。



グリーン購入の推進

本学では、購入物品等についても環境負荷の低減に資することを鑑み、国等による環境物品等の調達に関する法律(グリーン購入法)に基づき「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定し、環境物品等の調達を推進しています。グリーン購入法で定められた特定調達品目22分野287品目は主に紙類・文房具類・什器類等であり、公共工事については、事業の目的や用途、地域の調達可能な数量が限られている中で、より適切なものとなるように配慮しています。

その他の物品については、できるかぎり環境負荷の小さい物品等の調達に努めることとし、グリーン購入法適合品が存在しない場合でも、価格や品質に加えて、再利用率や適性廃棄を考慮に入れた物品を選択するなど環境に配慮しています。



下水道に関する環境負荷低減の取り組み

実験系・生活系排水の管理

本学の大岡山・湯島・駿河台・国府台キャンパスでは、実験系排水は公共下水道へ排水しています。実験系排水を下水排除基準にもとづき管理するため、学内の排水樹等から定期的な採水と分析を専門業者に委託しています。すずかけ台キャンパスの実験系排水は、キャンパス内の排水処理施設で処理後、処理水の一部を「中水」として冷却水やトイレ洗浄水として再利用を行っています。それ以外は河川へ放流しています。河川へ放流する際は、COD・窒素・リンの自動測定および専門業者による定期的な採水と分析により、水質を監視しています。

また本学では、生活系排水は公共下水道へ排水しています。生活系排水についても定期的な採水と分析を専門業者に委託しています。

本学で実施している環境安全管理の講習を通じて、公共下水道に有害物質を流さないよう、研究室等へ啓発活動を行っています。環境負荷となる事象が判明した際には、即座に警告や注意喚起を行う体制で環境負荷低減に努めています。

実験廃液の回収と適正処理

各キャンパスにおいて、実験によって発生した廃液は排水中に混入しないよう各研究室等で保管し、実験廃液として定期的に回収しています。回収した廃液は専門の処理業者に委託し、適正に処理することで環境へ排出しないように努めています。本学では、研究室が実験廃液を適正に分別するよう、環境安全管理の講習を通じて啓発活動を行っています。



河川放流水の採水

実験廃液の取扱いに関する注意!
Attention about the handling of the experiment waste fluid!

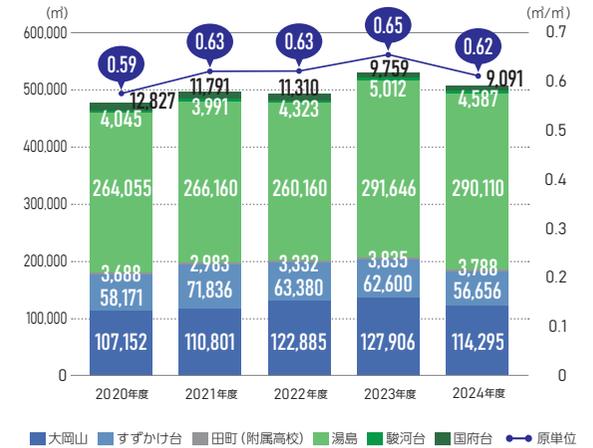
規制された実験廃液を流しに流さないこと!
Do not drain it to drain regulated experiment waste fluid!

実験廃液：実験によって発生した不良な液体(環境安全マニュアル24ページ参照)
Experiment waste fluid. The unnecessary liquid which was produced by an experiment. (cf. 24 environmental safe manual pages).

誤って実験廃液を流しに流した場合は、職員健康管理 環境安全管理事務局(内線5917)まで連絡して下さい。
When you drain it to drain experiment waste fluid by mistake, please contact administrative office, Environmental Safety and Employee Healthcare (Ext. 5917)

実験流しの使用についての注意喚起

下水道使用量



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大岡山	107,152	110,801	122,885	127,906	114,295
すずかけ台	58,171	71,836	63,380	62,600	56,656
田町(附属高校)	3,688	2,983	3,332	3,835	3,788
湯島	264,055	266,160	260,160	291,646	290,110
駿河台	4,045	3,991	4,323	5,012	4,587
国府台	12,827	11,791	11,310	9,759	9,091
計(m³)	449,938	467,562	465,390	500,758	478,527

	'24/20	'24/21	'24/22	'24/23
6キャンパス合計	106.4%	102.3%	102.8%	95.6%

6キャンパス合計の下水道使用量は昨年度に比べ4.4%減となりました。大岡山10.6%減、すずかけ台9.5%減、田町1.2%減、湯島0.5%減、駿河台8.5%減、国府台6.8%減となりました。



化学物質による環境負荷低減の取り組み

化学物質の適正管理

本学では、教育・研究・医療活動において多種多様な化学物質を取り扱っており、これらの化学物質の有害性・危険性を考慮し、環境保全、健康障害防止、事故防止の3つの観点から、法令遵守の体制を構築しています。

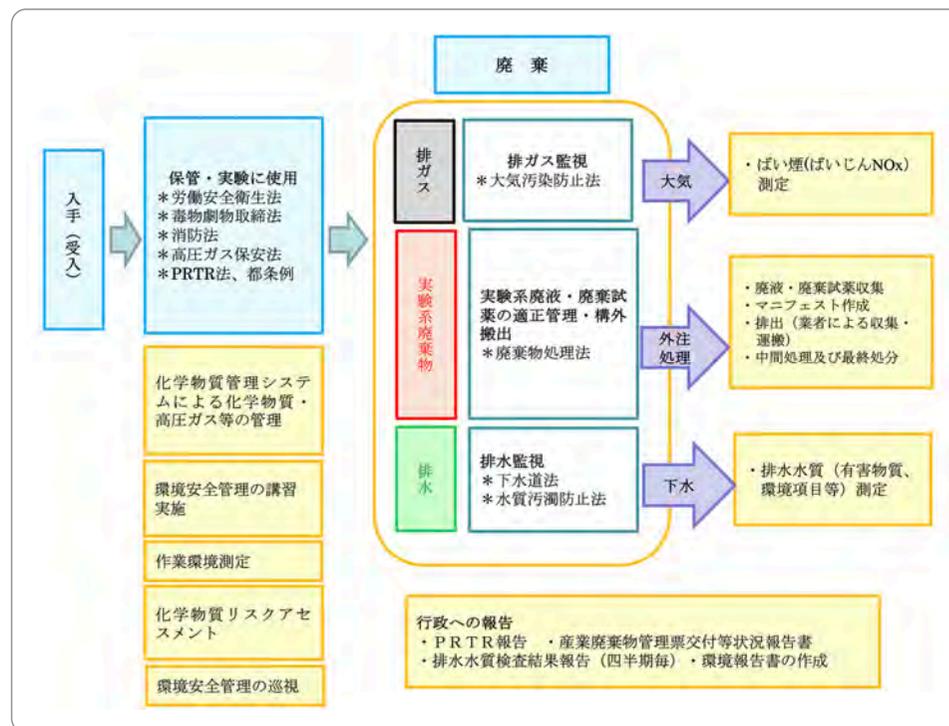
この体制を維持するため、昨年度は、東京科学大学の「環境安全管理規則」、「廃棄物管理規程」、「化学物質等管理規則」、「安全衛生管理規則」、「危険物管理規則」、「毒物及び劇物管理規則」及び「東京科学大学における学生等の安全衛生管理に関する規則」などを制定しました。

本学は、化学物質を取り扱う研究室が非常に多く、その使用状況も様々です。このため、化学物質に関する一連のプロセス（入手、保管、使用、廃棄）について、化学物質管理システムを用い、管理しています。

研究室では所有する化学物質を、ビン単位のバーコードで管理し、各プロセスを化学物質管理システムに登録しています。このため、全学の化学物質の状況をリアルタイムで把握することができるとともに、蓄積データは年間使用量の算出や化学物質のリスクアセスメントなどに活用しています。

また、教職員や学生を対象とする講習により、関連法令、学内規則、化学物質管理システムなどに関する知識の習得と適切な管理のスキル向上を図るとともに、研究室への巡視により、実際の化学物質管理状況も確認しています。

これらの活動を通じて、法令遵守とともに、環境負荷低減などの「化学物質の適正な管理」に寄与しています。



化学物質に関する一連のプロセス（入手、保管、使用、廃棄）



PRTR 対象物質等の環境中への排出抑制管理

PRTR 制度は、対象となる化学物質を扱っている事業者が、廃棄物として事業所の外に移動した量（移動量）や環境中へ排出した量（排出量）を自ら把握し、国に報告し、国が公表する仕組みです。2024年度において報告の対象物質となったのは、大岡山・すずかけ台キャンパスはいずれも、ヘキサン、ジクロロメタン、クロロホルムの3物質でした。また、湯島・駿河台キャンパスにおいて報告の対象物質となったのはヘキサンでした。図1に排出量と移動量の流れを、表1に各キャンパスの2024年度の集計結果を示します。



図1 排出量と移動量の流れ

出典：環境省 PRTRインフォメーション広場
<https://www2.env.go.jp/chemi/prtr/prtrmap/>

表1 PRTR 対象物質の移動量と排出量

キャンパス名	物質名	移動量(kg)	排出量(kg)
大岡山	ヘキサン	7,700	1,400
	ジクロロメタン	7,600	1,600
	クロロホルム	5,300	1,100
すずかけ台	ヘキサン	3,200	530
	ジクロロメタン	4,200	1,400
	クロロホルム	3,200	360
湯島・駿河台	ヘキサン	1,500	3.4

環境報告書ガイドライン対照表

環境報告ガイドライン2018年版による項目		環境報告書2025記載事項	
環境報告の基礎情報		記載内容	頁
1. 環境報告の基本的要件	報告対象組織・対象期間 基準・ガイドライン 環境報告の全体像	Contents 環境方針 基本的要件	Contents P1 P2,3
環境報告の記載事項			
1. 経営責任者のコミットメント	重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	理事長メッセージ	P1
2. ガバナンス	事業者のガバナンス体制 重要な環境課題の管理責任者 重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割	組織構成 環境マネジメント推進体制	P4 P5
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	ステークホルダーへの対応方針 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	環境に関する研究、環境に関する取り組み	P6,7,8,9,10,11,12
4. リスクマネジメント	リスクの特定、評価及び対応方法と全体的なリスクマネジメントにおける位置付け	PRTR対象物質等の環境中への排出抑制管理	P23
5. ビジネスモデル	事業者のビジネスモデル	基本的要件、環境に関する研究	P2,3,6
6. パリチェーンマネジメント	パリューチェーンの概要 グリーン調達の方針、目標・実績 環境配慮製品・サービスの状況	マテリアルバランス、廃棄物による環境負荷低減の取り組み	P13,19,20
7. 長期ビジョン	長期ビジョン・設定期間	環境方針	P1
8. 戦略	持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	理事長メッセージ、環境方針	P1
9. 重要な環境課題の特定方法	事業者が重要な環境課題を特定した際の手順 特定した重要な環境課題のリスト・重要であると判断した理由 重要な環境課題のパウンダリー	省エネルギーとCO ₂ 対策の取り組み、下水道に関する環境負荷低減の取り組み、 化学物質による環境負荷低減の取り組み	P14,15,16,17,18,21,22
10. 事業者の重要な環境課題	取組方針・行動計画 実績評価指標による取組目標と取組実績 実績評価指標の算定方法・集計範囲 報告事項に孤立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	環境方針	P1
主な環境課題とその実績評価指標			
1. 気候変動	温室効果ガス排出量・原単位 エネルギー使用量(内訳:総エネルギー・再生可能エネルギー)	マテリアルバランス、省エネルギーとCO ₂ 対策の取り組み	P13,14,15,16,17,18
2. 水資源	水資源投入量・原単位 排水量	マテリアルバランス、下水道に関する環境負荷低減の取り組み	P13,21
3. 生物多様性	事業活動が生物多様性に及ぼす影響・依存する状況と程度 生物多様性の保全に資する事業活動 外部ステークホルダーとの協働の状況	環境に関する取り組み	P7,8,9,10,11,12
4. 資源循環	資源の投入(再生不能・再生可能資源投入量、循環利用の量、循環利用率) 資源の廃棄(廃棄物等の総排出量・最終処分量)	環境に関する研究、マテリアルバランス、廃棄物による環境負荷低減の取り組み	P6,13,19,20
5. 化学物質	化学物質の貯蔵量・排出量・移動量・取扱量	マテリアルバランス、下水道に関する環境負荷低減の取り組み、化学物質による 環境負荷低減の取り組み、PRTR対象物質等の環境中への排出抑制管理	P13,21,22,23
6. 汚染予防	法令遵守の状況 大気汚染規則項目の排出濃度、大気汚染物質排出量 排水規則項目の排出濃度、水質汚濁負荷量 土壌汚染の状況	マテリアルバランス、省エネルギーとCO ₂ 対策の取り組み、下水道に関する環境負荷低減 の取り組み、化学物質による環境負荷低減の取り組み、PRTR対象物質等の環境中への排出 抑制管理	P13,14,15,16,17,18,21,22,23

編集後記

2024年10月に、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合し、東京科学大学 (Science Tokyo) が誕生しました。私自身、「環境報告書は今後どうなるのか」と心配しておりましたが、こうして2025年度の環境報告書を無事に公開できたことを大変嬉しく思います。

前身の両大学においても、これまでそれぞれ環境報告書を作成・公開してまいりましたが、今年は統合後初となる年度であり、時間的な余裕も乏しく、関係者間の十分な議論ができない中で作業となりました。それでも、中高生を主な読者として想定し、できる限り分かりやすい内容となるよう工夫いたしました。例年、6月5日の「国連世界環境デー」に合わせて、6月を「環境月間」と位置づけ、大田区・目黒区と共催で、東工大環境報告書ワーキング主催の特別講演を開催してまいりましたが、残念ながら本年は実施に至りませんでした。来年度にはぜひ復活させたいと考えており、それも今後のワーキンググループの課題の一つだと感じております。

大学の統合により、研究・教育の領域も広がり、それに伴い本学の環境報告書がカバーすべき内容や視点も拡大したように思います。今後は試行錯誤を重ねながら、Science Tokyoならではの特色をどのように環境報告書へ反映していくか、引き続き検討してまいります。皆さまには、あたたかく見守っていただけますと幸いです。また、ご意見・ご感想をいただければ大変励みになります。

最後になりますが、本報告書の作成にご尽力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。本報告書をお読みいただいた皆様、ぜひご感想をお寄せください。

2025年9月
環境報告書2025作成ワーキンググループ

主査 田川 陽一



参考ガイドライン：環境報告ガイドライン2018年版、環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)、環境報告書に係る信頼性向上の手引き(第2版)

公表媒体：本編のほかダイジェスト(和・英版)を作成、Webで公表、安全本部Webサイトに初版から最新版を公開しています。ペーパーレス化の推進のため、電子媒体のみで提供させていただいております。

次回発行予定：2026年9月

発行／2025年9月 国立大学法人東京科学大学
編集／東京科学大学環境報告書2025作成ワーキンググループ
お問合せ／環境報告書作成事務局
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1
Tel:03-5734-3403
E-mail:env.rpt@adm.isct.ac.jp

©東京科学大学環境報告書2025作成WG